

タイトル	中国新疆ウイグル自治区について
著者	阿不都拉，古麗娜尔
引用	季刊北海学園大学経済論集，54(1)：111-116
発行日	2006-06-30

《研究ノート》

中国新疆ウイグル自治区について

グリナル アブドラ
古麗娜尔・阿不都拉

1 はじめに

1955年10月1日、中国では新疆ウイグル自治区が成立した。新疆ウイグル自治区は、中国の西北にあり、また、ユーラシア大陸の真ん中にある。全国で海に一番遠いところだが、全国でも数少ない北極の影響を受ける場所である。

中国では、日本の都道府県に等しい行政単位を省、市、自治区と言う。省は文部省の「省」の字だが、省は全部で24ある。市は直轄市で、北京・上海・天津と重慶市がある。自治区とは、民族の集中した地区の政府で、中国には5つの民族自治区があり、新疆ウイグル自治区はその中の1つである。新疆は面積が166万平方キロメートルあり、全国面積の6分の1に達する全国で最大の面積の省区である。国境線は5,400キロメートルあり、北から南に外モンゴル・ロシア・カザフスタン・キルギスタン・タジクスタン・アフガニスタン・パキスタン・インドなど8か国と隣接している。

2 新疆の地形

新疆の地形はかなり複雑である。新疆の「疆」の字を見てほしい。右半分は横線が三本あり、中に水田の「田」が二つある。偶然ではあるが、これが丁度新疆の地形を表わしているのである。新疆では、一般に地形を説明する時には、「三本の山が二つの盆地を囲んでいる」と言う。北から南に三本の山脈、すなわちアルタイ山脈（山陵の平均高は3,000メートル）、天山山脈（山陵の平均高は4,000メートル）、崑崙山脈（山陵の平均高は5,000メートル）がある。そして、アルタイ山脈と天山山脈の間にジュンガル盆地（面積は38万平方キロメートル）があり、天山山脈とコンロン山脈の間にタリム盆地（面積は53万平方キロメートル）がある。ジュンガル盆地の真ん中には、クルバントンコト砂漠があるが、砂は固まっていて、雨が多い年には草も生える。しかし、砂漠の中の草は普通の草と違い、30センチの草には1メートル以上の根がある。このような草であればこそ、砂漠の中で生きていけるのである。タリム盆地の中は、世界でも有名な、

新疆ウイグル自治区民族地域の自治

年次	地、州、市数 (カ所)	その中 民族自治州	県(市)数 (カ所)	その中 民族自治県	郷鎮数 (カ所)	その中 民族自治郷
2003年末	14	5	88	6	994	43

民族自治州、県の概況

民族自治州、県の概況	成立時期	2003年末人口 (人)	土地面積 (万平方)
民族自治州			
サンジ回族自治州	1954年7月15日	1,543,303	7.76
イリ, カザフ自治州	1954年11月27日	4,083,342	26.88
ボルタラ, モンゴル自治州	1954年7月13日	439,607	2.49
バインゴルン, モンゴル自治州	1954年6月23日	1,126,467	47.1
クズルス, キルギス自治州	1954年7月14日	458,449	7.25
民族自治県			
パリコン, カザク自治県	1954年9月30日	101,044	3.7
ムレイ, カザク自治県	1954年7月15日	85,469	1.33
チャブチャル, シワ自治県	1954年3月25日	164,832	0.45
ホブクセル, モンゴル自治県	1954年9月10日	49,521	2.82
カルシャ, 回族自治県	1954年3月15日	124,724	0.24
タシクルガン, タジク自治県	1954年9月17日	33,204	5.05

(2004年統計年鑑)

中国で最大の砂漠であるタクラマカン砂漠がある。ここは本当の砂原であり、強い風が吹くと、砂は波を打ちながら移動する。そして、砂が空中に舞い上がると、適当な気流に乗って遠くまで吹き渡り、日本の黄砂の元になることもある。近年来、この砂漠では石油が開発されている。その他、新しく砂漠自動車道路が建設され、盆地の南側に行く時間がかなり短くなり、また、この道路を見学に行く人も多い。

新疆の一般の習慣では、天山山脈の北側を「北疆」と呼び、その南側を「南疆」と言う。北疆と南疆は、地形、天気気候、民族分布、産業などの各方面で相当な違いがある。この他、タリム盆地の東側にトルファン盆地があり、昔のシルクロードの重要な経路であった。トルファン盆地は標高が非常に低く、一番低い所は盆地の真ん中にあるアイチン湖で、海拔はマイナス154メートル、中近東の死海に次いでの世界第2の低い場所で、中国で最も低い土地である。新疆の平均高度が1,000メートル以上の高原の中に、全国の最低地があるとは信じがたい事実である。これと反対に、中国とインドの国境近くには、8,600メートル以上のチョムランマに次ぐ世界第2の高峰がある。したがって、新疆は、世界の第2の砂漠、世界第2の低い所、世界第2の高い所を持つ、複雑な地形である言っても過言ではない。

3 新疆の気候

新疆の気候は、大陸性の温帯気候である。北疆は北の山が低く、シベリアからの寒気が直接入ってくるので、冬は非常に寒い。強い寒波は北極から南下して北疆に到る。天山山脈の北側の麓にあるウルムチ(新疆の首府)は、毎年1月には、マイナス20度以下にもなる。最低記録は1952年のマイナス42度である。しかし、最近地球の温暖化のため、2-30年前よりは、ずっと暖かくなった。ウルムチは、緯度からみると、日本の北海道の旭川と同じで、寒さが特徴の1つである。ウルムチは新疆の一番寒い所ではなく、アルタイ地区の青河ではマイナス50度

の記録がある。夏は大陸性気候のため、相当暑い。ウルムチでは40度以上の記録もあるが、最近はそのままで到っていない。しかし、35度以上は毎年出るであろう。新疆で一番暑いのは、言うまでもなくトルファンで、気象台の観測でも47度に達しており、火焰山の砂の表面は60度から70度までにもなる。春と秋は、昔はとても短かかったのであるが、最近は少し長くなったような感じがする。

新疆の寒さが1つの特徴とすれば、もう1つの特徴は乾燥である。北疆の年降水量は、200ミリから300ミリくらいで、南疆は100ミリ以下、トルファンは16ミリしかない。農業は主に灌漑農業で、冬山の雪が夏になって解け、谷に集まって川になり、山の麓に流れていく。山の麓にオアシスができ、人が集中して町になり、農業が発展する。川水は用水路を流れ、農地を潤し、最後に砂漠の中に流れて消えてしまうのである。これが内陸河川だが、日本のように、全部海に流れるのと違うので、理解していただけないかもしれない。北疆の一部分の農業と牧場にある草原植物の成長は、雨に頼るので、降水量が多い年は豊作だが、雨が少ない年は収穫に影響するばかりでなく、放牧にも相当な影響を与える。新疆は中国でも有名な放牧地なので、それへの影響は新疆の経済発展にも影響を与えることになる。このような乾燥している土地に長年生活している新疆の人々は、知恵を絞っていろいろな対策を考え出している。例えば、ウルムチでは、冬の雪が降った後、雪かきをする時に、雪を道路の並木の側に集める。春になって解ければその雪が並木の根を潤すことになる。トルファンでは、カレーズと言う地下用水路を作り、天山山脈の地下水をトルファン盆地の真ん中に流すようにしている。乾燥した気候は悪い面だけでなく、良い面もあるのである。トルファンの交河古城や高昌古城などは、乾燥しているからこそ、千年以上も保存されており、3千年も前の死体が腐らないで発見された新疆のミイラも、乾燥のおかげである。新疆の果物が甘くて大きいのも、一昼夜の気温差が激しいのが原因で、それも乾燥しているからである。昼間は暑くても夜は涼しく、熱帯夜の眠れないと言うのはトルファン以外にはほとんどない。

4 新疆の民族

中国は多民族の国である。全国では56の民族があり。漢民族以外の少数民族は、主に西北と西南に集中している。新疆も中国では多民族の地域に属し、全部で47の民族がいて、主な民族は13に達する。その中で、ウイグル族は880万人以上に至り、全国における人口数が500万人以上である人口最も多い7民族の1つである。新疆の人口は1,900万人以上で、漢民族(770万人以上)、ウイグル族の他に、カザフ族も130万人以上の民族である。この民族は主に放牧業に従事し、北疆に分布している。他に回族(86万人以上)、キルギス族(17万人以上)、モンゴル族(16万人以上)、シボ族(4万人以上)、タジク族(4万人以上)、満族(2万人以上)、ウツベック族(1万人以上)、オロス族(1万人以上)、ダウル族(6千人以上)、タタール族(4千人以上)などがある。ウイグル族、モンゴル族などは、北疆・南疆に分布しているが、カザフ族、シボ族、オロス族、タタール族は北疆に住み、タジク族は南疆のパミール高原に住んでいる。これらの民族の中で、漢・満・モンゴル・シボ・オロス以外の民族は、イスラム教を信じており、イスラム教を信じる人をムスリムと言うが、彼らは豚肉を食べず、主に羊肉、牛肉を食べる。この他、鳥類や魚類などを食べる。したがって、新疆ではレストランは、漢民族とムスリムのレストランははっきりと分けられている。しかし、イスラム教を信じない民族の人でも、イスラムの

新疆自治区民族構成

民族	2003年末人口数 (人)	構成 (総人口を100とする)
合計	19,339,500	100.00%
ウイグル族	8,823,476	45.62%
漢族	7,711,014	39.87%
カザフ族	1,352,125	6.99%
回族	866,653	4.48%
モンゴル族	166,890	0.86%
キルギス族	173,690	0.90%
シワ族	40,323	0.21%
タジク族	40,933	0.21%
オロス族	11,052	0.06%
ウズベック族	14,567	0.08%
タタール族	4,899	0.03%
ダウル族	6,754	0.03%
満族	23,869	0.12%
その他	103,255	0.53%

(2004年新疆統計年鑑)

レストランで食事をすることは構わないのである。新疆のマトン是非常に美味しいので、非ムスリムの人たちも豚肉よりマトンのほうを好むようになってきた。そのためか有名なレストランは、ほとんどムスリムのレストランである。

新疆ウイグル自治区の首府はウルムチ市である。ウルムチの人口は180万人以上で、面積は11,140平方キロメートル、市区は835平方キロメートルである。ウルムチの緯度は45度に近く、日本の旭川と同じくらいであることは前に述べたが、経度は90度で、北京との時差は2時間、日本とは3時間の時差がある。新疆では二種類の時間を使っている、すなわち北京時間と新疆時間であり、この2つには2時間の時差がある。しかし、実際の生活は新疆時間に合わせて行っているため、北京時間を2時間ずらして使っている。例えば、朝の出勤時間は、北京時間で10時、新疆時間で8時、また正午は北京時間で2時、新疆時間では12時である。ウルムチでは一般に漢民族は北京時間を使用し、ウイグル族は新疆時間を使っている。

新疆の各民族は、歌と踊りが非常に好きで、かつ上手であり、いろいろな集会などで歌ったり、踊ったりする。特にイスラム教の2つの大きな祭り——ローズ祭りとコルバン祭りで、モスクの前は踊りを踊ったりする人たちでとてもにぎやかである。

5 新疆の経済発展

新疆の産業は工業と農業が主な内容である。工業では、鉱物類の採掘、例えば、石炭・石油・鉄鉱・天然ガス及び非金属のゴールド・銅・ニッケルなどと石綿・宝石・玉などがあり、既に発見された鉱物は129種類にのぼる。ウルムチの郊外にあるウルムチ鋼鉄会社は、1950年代に建設され、長年の間に何回も規模拡大をしてきた製鉄所で、現在ではある程度の規模を持っている。

50年代に建設したクラマイの石油工業は新疆の建設に貢献した。今はタクラマカン砂漠の中やトルファン盆地などに油田が発見され、政府は新疆の「黒と白」の発展方向を決定した。この黒は石油で、白は綿である。石油と天然ガスの大量開発は、化学工業の基礎になり、将来の発展は前途無量である。農業では、小麦が主で2種類あり、春に蒔く春小麦と10月に蒔く冬小麦がある。冬小麦は雪が降る前にある程度まで育った後、雪の下で冬を過ごし、春になると続けて育て、6月に収穫する。新疆では米の栽培も長い歴史を持ち、ウルムチの近くに「米泉」と言う市があるが、ここでは天山山脈の水を利用して、長年米の栽培をしている。その他、天山山脈の南の麓にあるアクスやコルラなども米の産地である。この十数年には、綿栽培が発展し、農業経済に重要な位置を占めるようになった。特に、新疆特産の繊維の長い綿は、「長絨綿」と言って、高級名コットン製品の原料である。そのため、新疆の紡績工業も発展している。新疆では果物の栽培も盛んである。トルファンの種無し葡萄やハミ瓜などは世界的に有名である。近年来、果物を原料とする加工業も発展し、ワイン製造業などが多くなっている。新疆には広い草原があるので、放牧に非常に有利で、長年にわたってカザフ族を始め、沢山の人が牧畜業に従事している。そして、新疆は中国の最大の牧場の1つでもある。また、畜産の製品を原料とする加工業が発展しつつある。

新疆の経済は中国の東南沿海に比べると相当遅れている。しかし、この20年の発展は著しく、ウルムチ市は今、新疆の政治・経済・交通・文化の中心になっている。180万人以上の人口の大都会になり、「こんな地の果てに大きな町がある」と、沢山の観光客がウルムチ空港に着いた途端から驚いているようである。新疆の都会は、ウルムチの他にカシュガルがあるが、カシュガルは南疆にあるウイグル独特の町で、「カシュガルに来なければ新疆に来た価値がない」とさえ言われている。その他、イリ、アルタイ、チョグチャク、コルラ、ホータンなども発展しつつある都会である。これらの町とウルムチの間は、自動車道路と空路でつながれ、近年には鉄道も引かれ、交通は以前よりずっと便利になっている。以前はわずかの鉄道もなかった南疆も、ウルムチからコルラへと、コルラからカシュガルへと鉄道を伸ばし、カシュガルまで運営している。広いタクラマカン砂漠の周囲を汽車が走り回るのも遠くないことであろう。

6 新疆の文化建設

新疆の文化建設は、この55年来幅広く発展してきた。55年前は、大学と言っても、今の新疆大学の前身であった「新疆学院」しかなかったのであるが、現在ウルムチ市には新疆大学を始め、新疆医科大学・新疆農業大学・新疆師範大学・新疆職業大学・新疆財經学院・新疆教育学院・新疆政法学院・新疆石油学院・新疆芸術学院などがあり、地方にも石河子大学・カシュガル師範学院・イリ師範学院など26の大学がある。高校と中学校(2,154)・小学校(5,832)も新疆の各地にある。

新疆の教育機関は、小学校・中学校・高校・大学などであり、小学校から中学校を卒業するまでは義務教育である。中学校から高校に入る時は、試験を受けるが、中学生の約60%以上は高校に進学する。その外、中学校の中でも試験を受けてテクノロジー専門学校に入る者もいる。高校を卒業したほとんどの生徒は、大学に入学するための試験勉強に努力する。この生徒たちの約30%は、各専門の大学(学院)に入る。高校や大学の試験に不合格であった生徒たちで、農村や牧場出身の生徒は、ほとんどが農業や牧畜に従事するが、県・市・大都市の生徒たちは自分の知

識や技術によって適当な仕事に従事することになる。現在の中国政府の少数民族に対する政策は、少数民族が居住している地区にある専門学校・学院・大学などが受け入れる枠を設定して、試験を受けた学生は、定員が満たされるまで成績順に選抜されるというものであり、その選抜は学生の希望に則ったものである。また中国においては、国の重点大学が優先的に学生を選抜する権利を持ち、少数民族の枠を用意しなければならないという義務がある。そこで、中国内地の重点大学は、最初に少数民族学生を選抜するために自分の大学の受け入れ枠を用意して、新疆の首府ウルムチ市に行き、自分の大学の受け入れ計画数まで学生を選んでくるのである。これは国が少数民族を大学に入学させるために作った政策である。少数民族の中から選ばれた学生は、成績は漢民族の学生より低くても入学することができる。この10年間に新疆でも私立専門学校が建設され、国立の大学・学院・専門学校に入学することができなかつた生徒は、もう一度私立専門学校によって選抜される機会ができた。

新疆の小学校・中学校・高校ではウイグル語だけでなく、カザフ語・キルギス語・モンゴル語・中国語で授業を行う。しかし大学では、中国語とウイグル語だけで講義が行われ、他の民族の言葉で講義が行われることはほとんどない。そこで、ウイグル族を始め漢民族以外の民族の学生は、大学に入って、まず一年ほど中国語を習った後で、4年間専門分野の勉強をする。しかし今は、漢民族以外の民族の中でも、小学校から漢民族の学校に入ると直接中国語で講義を聴くことができる。このような学生は、中国で「民考漢」と言われる。中国内地の重点大学における少数民族枠の対象も、この「民考漢」の学生たちである。この他、中国内地における重点大学の中で、中央民族大学や各民族学院などは、各民族の学生を養成するために設立されたもので、各自自治区の少数民族の言語で学んだ（「民考民」）学生たちも、高校卒業後に直接入学できる。

新疆は昔からシルクロードの重要な地域で、東西の文化や経済及び人の交流などの影響を受けているところである。またシルクロードも新疆地域で北路・南路など何本もあり、その各地に遺跡がある。イスラム教が登場する前は、仏教が盛んだったので、仏教とイスラム教の遺跡が共に残っている。特にトルファンの交河古城・高昌古城・ベツクリク千仏洞やクチャのキジル千仏洞などが輝いている。歴史に繁盛した楼蘭・ニャなどの遺跡も少しずつ発掘されている。

7 終わりに

中国は今発展途上国で、中国西部の新疆ウイグル自治区は、更に発展途上にある地域である。しかし他方で、希望のある地域であり、かつ将来性のある地域でもある。新疆政府や各民族の人々は、地域における住宅改革や大気汚染対策などの環境整備にも力を入れており、新疆をよりよく建設するために、更に大きく発展させようとしているのである。

参考文献：

- 1 孫審清、「新疆紹介」、新疆人民出版社、1999年12月
- 2 カミリ、「シルクロードの要衝〈新疆〉の現状」、新疆大学歴史学部、2000年3月
- 3 グリナル・アブドラ、「中国西部都市——新疆」、北海学園大学学報、2000年3月、5月
- 4 新疆統計局、「2004年の新疆統計年鑑」、中国統計出版社、2004年7月